


評価対象年度	平成26年度	施策評価シート		政策	10	施策	26
施策名		26 外国人も活躍できる地域づくり		施策担当 部局	経済商工観光部		
「宮城の将来 ビジョン」にお ける体系	政策名	10 だれもが安全に、尊重し合いながら暮ら せる環境づくり		評価担当 部局 (作成担当 課室)	経済商工観光部 (国際経済・交流課)		

施策の目的 (目標とする 宮城の姿)	○ 日本人と外国人が互いの文化や習慣の違いを認め合いながら、共に安心して生活していける地域社会、いわゆる「多文化共生社会」の形成が進んでいる。 ○ 外国人県民にとって必要なコミュニケーション支援や保健・医療・福祉、教育、労働などの生活に欠かせない基礎的なサービスの提供体制が整備されている。 ○ 外国人県民が地域との交流や地域づくりに積極的に参加している。 ○ 芸術や教育、文化、経済などの分野において様々な国際交流活動が県民や教育機関、民間団体によって主体的に行われている。 ○ 高度な海外の人材が県内の企業や研究機関で活躍している。	
施策の方向 (「宮城の 将来ビジョン ・震災復興 実施計画」の 行動方針)	◇ 多文化共生の基本理念の啓発等を通じ、市町村や関係団体、県民の適切な役割分担と協働を推進し、外国人県民等とともに取り組む地域づくりを促進する。 ◇ 多言語化支援や家族サポート等を通じ、外国人県民等の生活の安全・安心の確保や家庭生活の質の向上等を図り、外国人県民等の自立と社会活動参加を促進する。 ◇ 友好地域をはじめとした海外との交流を深めるとともに、県民・民間団体が主体的に国際交流活動や国際協力活動を行うことができる環境づくりを促進・支援する。	

決算(見込)額 (千円)	年度	平成26年度 (決算(見込)額)	平成27年度 (決算(見込)額)	平成28年度 (決算(見込)額)	平成29年度 (決算(見込)額)
	県事業費	10,023	-	-	-

※決算(見込)額は「宮城の将来ビジョン推進事業」と「取組に関連する宮城県震災復興推進事業」の合計額(再掲分含む)

目標 指標 等	■達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」 C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」 ■達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 スtock型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値) 目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)						
		初期値 (指標測定年度)	目標値 (指標測定年度)	実績値 (指標測定年度)	達成度 達成率	計画期間目標値 (指標測定年度)	
	1	多言語による生活情報の提供実施市町村数 (市町村)	5市町村 (平成20年度)	10市町村 (平成25年度)	11市町村 (平成25年度)	A 120.0%	14市町村 (平成29年度)
	2	外国人相談対応の体制を整備している市町村 数(市町村)	4市町村 (平成20年度)	5市町村 (平成25年度)	6市町村 (平成25年度)	A 200.0%	8市町村 (平成29年度)
3	日本語講座開設数(箇所)	25箇所 (平成20年度)	28箇所 (平成25年度)	27箇所 (平成25年度)	C 66.7%	31箇所 (平成29年度)	

■ 施策評価（原案）	概ね順調
-------------------	-------------

評価の理由	
目標指標等	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの目標指標のうち、1つ目の指標「多言語による生活情報の提供実施市町村数」と2つ目の指標「外国人相談対応の体制を整備している市町村数」については、順調に伸びており、達成率は、前者が120.0%、後者が200.0%で、達成度はいずれも「A」に区分される。 ・3つ目の指標「日本語講座開設数」は、講師確保が困難であったことを理由として、目標を1下回った結果、達成率は66.7%、達成度「C」に区分される。
県民意識	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年の県民意識調査では、この施策を「あまり知らない」「知らない」を合わせた「低認知群」が83.7%となっている。平成26年の同調査では、この施策に関連する「だれもが住みよい地域社会の構築」について、「低認知群」は54.9%と、前年(51.3%)を上回る結果となっている。 ・一方、「高重視群」は77.2%となっており、前年(77.9%)から、0.7ポイント減少したものの、依然としてこの施策に対する県民の期待は高いと思われる。
社会経済情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災前の平成22年12月末時点における県内の在留外国人は16,101人だったが、震災後の平成23年12月末時点では13,973人と約13%の減少となった。その後、徐々に増加に転じ、平成26年12月末時点では16,274人と震災前に比較すると約1%増加している状況にある。 ・特に留学生は震災後△21%(平成23年12末／平成22年12月末)と大幅に減少したが、平成25年12月末時点では△14%、平成26年12月末時点では8%の増加となっている。また、技能実習生は震災直後、半数以下まで減少したが、その後回復し、震災前の平成22年12月末の865人が、平成26年12月末時点では1,729人と震災前に比較し50%の増加となっている。
事業の成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年3月に策定した「第2期宮城県多文化共生社会推進計画」に基づき、「外国人県民とともに取り組む地域づくり」及び「外国人県民の自立と社会活動参加の促進」に向けて各種取組を行った。 ・具体的には、一般県民を対象にして、市町村や県国際化協会等と連携しながらシンポジウムを開催するなどにより、多文化共生に関する普及啓発が図られたほか、外国人相談センターの設置運営により外国人県民やその家族等から寄せられる相談に6か国語で対応し、245件の相談を受け付けた。 ・また、外国人が災害等の緊急時に日本人に支援を求める際に使用する「緊急用携帯マニュアル(ヘルプカード)」を増刷・配布することにより、日本語によるコミュニケーションが十分でない外国人県民が安心して暮らすことができる環境を醸成した。

※ 評価の視点： 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

施策を推進する上での課題と対応方針（原案）	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査の結果では、この施策の高重視群は7割を超え、県民の期待は高い状況にあるが、一方で、高認知群は5割以下の状況にあることから、県民に対し、多文化共生について一層の普及啓発を図る必要がある。 ・外国人県民の自立と社会参加を実現するためには、外国人県民の日本語能力の向上や家庭生活の質の向上などに関わる支援が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生社会を着実に構築していくため、一般県民に対し、シンポジウムの開催や多文化共生パンフレットの作成・配布などを通して多文化共生の理念等の周知を図るとともに、市町村や地域国際化協会など外国人県民を支援する機関との連携を深め、多文化共生施策を効果的に実施する体制を整備する。 ・外国人県民が日本語や日本の生活習慣を学ぶ機会の確保に向け、日本語講座の新設や一層の充実を図るとともに、外国人県民とその家族をサポートするみやぎ外国人相談センターの機能のさらなる充実を図る。

評価対象年度 平成26年度

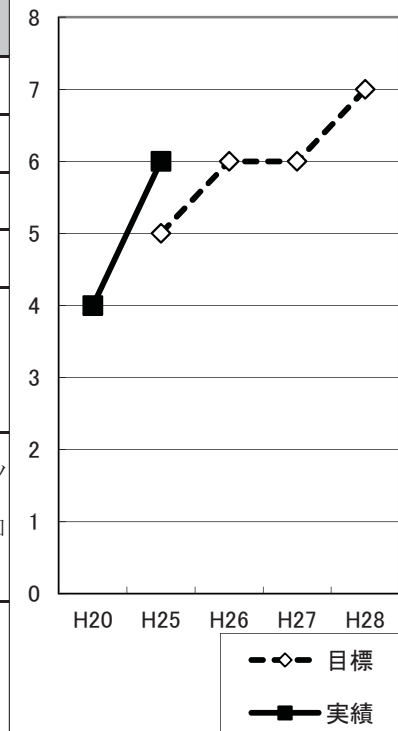
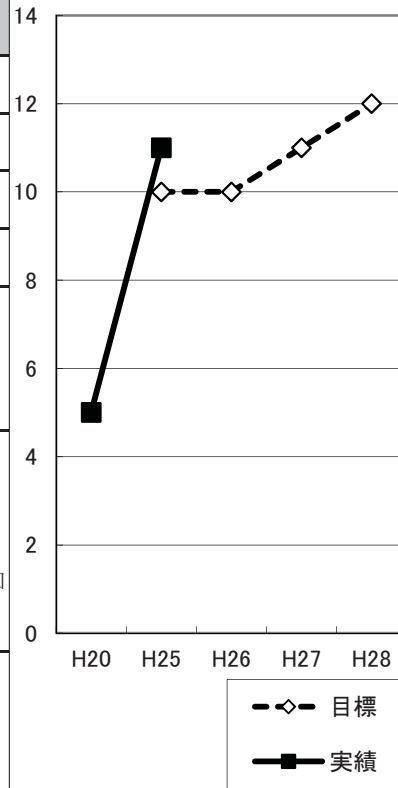
政策 10 施策 26

目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 ストック型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)
 目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)

1	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	多言語による生活情報の提供実施市町村数(市町村) [ストック型の指標]	指標測定年度	H20	H25	H26	H27	H28
	目標値	-	10	10	11	12	
	実績値	5	11	-	-	-	
	達成率	-	120.0%	-	-	-	
目標値の設定根拠	特別永住者を除く在留外国人数が概ね150人以上の市町での実施を目標として設定した。 なお、この指標は、第2期多文化共生社会推進計画(平成26~30年度)の目標指標の一つである。						
実績値の分析	<ul style="list-style-type: none"> 前年度から2増加して実績値11となり、目標値の10を上回った。 多言語による生活情報の提供方法は、市町村のホームページ、印刷物への掲載等があるが、翻訳などの予算計上が必要となる。新たな情報提供の実施に当たっては、予算確保のほか、外国人住民のニーズの把握など、地域の関係団体との連携が必要となると思われる。 平成26年度から市町村振興総合補助金のメニューに多文化共生推進事業を加え、多言語による生活情報の提供等への補助事業を実施している。 						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						

2	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	外国人相談対応の体制を整備している市町村数(市町村) [ストック型の指標]	指標測定年度	H20	H25	H26	H27	H28
	目標値	-	5	6	6	7	
	実績値	4	6	-	-	-	
	達成率	-	200.0%	-	-	-	
目標値の設定根拠	在留外国人数が概ね300人以上の市町での実施を目標として設定した。 なお、この指標は、第2期多文化共生社会推進計画(平成26~30年度)の目標指標の一つである。						
実績値の分析	<ul style="list-style-type: none"> 前回から1増加して実績値6となっており、目標値を1上回った。 体制整備の必要性を認識している市町村は多いと思われる反面、体制整備のノウハウ習得や人員の確保が課題となっていると考えられる。 平成26年度から市町村振興総合補助金のメニューに多文化共生推進事業を加え、相談体制整備等への補助を実施している。 						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						



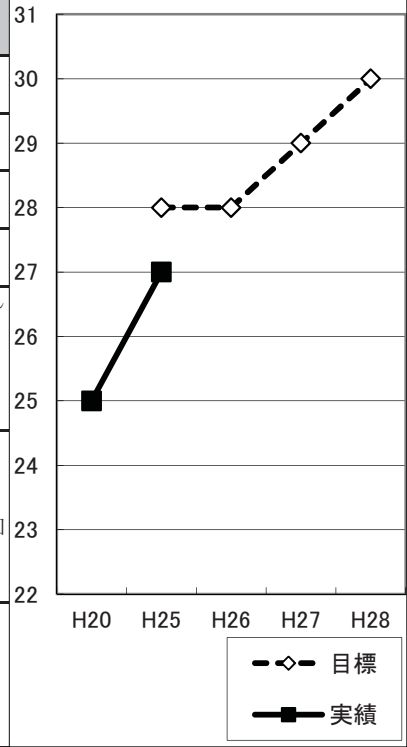
評価対象年度 平成26年度

政策 10 施策 26

目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 ストック型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)
 目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)

3	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H26	H27	H28	H29
	日本語講座開設数(箇所) [ストック型の指標]	指標測定年度	H20	H25	H26	H27	H28
	目標値	-	28	28	29	30	
	県内に開設されている日本語講座や日本語教室の数	実績値	25	27	-	-	-
	達成率	-	66.7%	-	-	-	
目標値の設定根拠	・目標設定の時点での開設数に加え、在留外国人が多い市部において開設されることを目標として、目標を設定した。 なお、この指標は、第2期多文化共生社会推進計画(平成26～30年度)の目標指標の一つである。						
実績値の分析	・前年度から1減少して実績値27となり、目標値を1下回った。 ・減少した日本語講座については、講師の確保が困難となったものであり、日本語講座の必要性を認識していても人員確保が課題となっていると考えられる。 ・平成26年度から市町村振興総合補助金のメニューに多文化共生推進事業を加え、日本語講座の開設等への補助を実施している。						
全国平均値や近隣他県等との比較	-						



評価対象年度	平成26年度
--------	--------

政策	10	施策	26
----	----	----	----

宮城の将来ビジョン推進事業											
評価番号	事業番号	事業名	平成26年度 決算見込額 (千円)	事業の状況							
		事業主体等	特記事項	事業概要			平成26年度の実施状況・成果				
1	1	多文化共生推進事業	3,302	事業概要			平成26年度の実施状況・成果				
				国籍や民族等の違いにかかわらず、県民すべての人権が尊重され、だれもが社会参加できる「多文化共生社会」の形成を目指し、日本人と外国人の間に立ちはだかる「意識の壁」、「言葉の壁」、「生活の壁」を解消することにより、自立と社会参加を促進するとともに、災害等の緊急時においても外国人の生活の安全・安心を図る。			<ul style="list-style-type: none"> みやぎ外国人相談センターの設置(6言語での相談対応。相談件数290件) 災害時通訳ボランティアの募集、研修会の開催 多文化共生シンポジウムの開催 多文化共生研修会の開催 多文化共生社会推進審議会の開催 多文化共生社会推進連絡会議の開催 				
		経済商工観光部 国際経済・交流課	取組8・33に再掲 震災復興1④	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
妥当	成果があった	概ね効率的	維持	3,302	-	-	-				
2	2	海外交流基盤強化事業	4,678	事業概要			平成26年度の実施状況・成果				
				中国吉林省、米デラウェア州、露ニジェゴロド州等外国政府等との関係を強化するとともに、本県PR等を効果的に実施し、販路開拓等を下支えする。また、震災後、被災地支援等で交流があった各国政府・経済団体等に県内企業の情報を積極的に発信するなど、具体的な企業間交流につながる支援を行う。			<ul style="list-style-type: none"> 友好省州等海外自治体への職員、訪問団の派遣 3回 友好省州等海外自治体からの職員、訪問団の受入 1回 				
		経済商工観光部 国際経済・交流課	取組8 再掲 震災復興3②⑨	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
妥当	成果があった	概ね効率的	維持	4,678	-	-	-				
3	3	国際協力推進事業	2,043	事業概要			平成26年度の実施状況・成果				
				相手地域のニーズに合った国際協力を実施することで、宮城の知名度及び評価の向上と本県との経済的相互発展の牽引役となる「親宮城」人材の育成を図るとともに、国際協力関係を地域間の経済交流の促進と本県の経済発展につなげる。			<ul style="list-style-type: none"> 友好省である吉林省から研修員受入れ(3人) マラウイへの3人目の職員の派遣 ベトナムでのBOP(Base of the economy Pyramid)ビジネス(発展途上国の低所得者層を対象としたビジネス)の展開を模索している県内企業と連携し、JICA草の根技術協力事業を実施。 				
		経済商工観光部 国際経済・交流課	取組8 再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
妥当	成果があった	効率的	維持	2,043	-	-	-				
決算(見込)額計			10,023								
決算(見込)額計(再掲分除き)			3,302								

評価対象年度	平成26年度
--------	--------

政策	10	施策	26
----	----	----	----

取組に関する宮城県震災復興推進事業										
評価番号	事業番号	事業名	平成25年度 決算見込額 (千円)	事業の状況						
		事業主体等	特記事項	事業概要			平成26年度の実施状況・成果			
1	1	海外交流基盤再構築事業	非予算的手法	事業概要			平成26年度の実施状況・成果			
				中国吉林省, 米デラウェア州, 露ニジェゴロド州等外国政府等との関係を強化するとともに, 本県PR等を効果的に実施し, 販路開拓等を下支えする。また, 震災後, 被災地支援等で交流があった各国政府・経済団体等に県内企業の情報を積極的に発信するなど, 具体的な企業間交流につながる支援を行う。			・海外からの賓客等の受入 44件 ・復興PRのための職員派遣 2件			
	経済商工観光部	取組8 再掲	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
	国際経済・交流課	震災復興3②④	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H26	H27	H28	H29
決算(見込)額計		0	妥当	成果があった	-	維持	-	-	-	-
決算(見込)額計(再掲分除き)		0								